



2026年3月期第3四半期 決算補足資料

2026年2月10日



ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社
(東証プライム市場：6544)

1

2026年3月期 第3四半期業績概要

2

2026年3月期 連結業績予想



2026年3月期 第3四半期業績概要

- 国内保守契約台数は順調な増加を続ける一方、リニューアルは下半期に入って加速
- リニューアルの急増局面では利益率が低下する傾向があるが、今年度は単価の上昇により相殺、生産性向上により営業利益率は改善傾向
- 売上・営業利益共に通期業績予想に対する進捗率は74%と極めて順調な決算

契約数・国内拠点数・従業員数の推移

リニューアル台数は大幅増加も会社計画通りの進捗

- 国内保守契約台数は123,370台。第3四半期の純増台数は全てオーガニックでほぼ1万台と通期目標に対して順調に進捗。M&Aによる台数増は第4四半期に反映される見込み
- リニューアル実施台数は1,880台と前年同期より280台増加。10-12月の3か月では前年同期比2割増と加速を見せており、通期目標に対して順調に推移
- 契約増に伴う営業所の開設に加え、1月1日に東北パーソンセンターを開設したことにより拠点数は153拠点（26年2月1日現在）
- 従業員数は前期末比230名増。新卒に加え中途でも積極採用を継続

	2022年3月期 通期 実績	2023年3月期 通期 実績	2024年3月期 通期 実績	2025年3月期 通期 実績	2026年3月期 第3四半期 実績	(台、名) (前期末比増減)
保守契約台数	79,000	88,630	100,230	113,520	123,370	+ 9,850
リニューアル実施台数（期中）	1,150	1,530	1,930	2,230	1,880	+ 280
立体駐車場	18,830	22,050	24,660	26,740	27,460	+ 720
拠点数	124	132	138	148	151	+ 3
従業員数	1,618	1,766	1,868	2,028	2,258	+ 230
うち技術員	1,003	1,096	1,159	1,271	1,450	+ 179
うち営業員	195	218	248	272	279	+ 7

2026年3月期第3四半期 業績概要(売上種類別)

5

保守・保全の堅調な進捗に加え、リニューアルの加速で高い增收ペースを維持

- 保守業務売上は保守契約台数の伸びに応じた安定成長が続く
- 保全業務は積極的な提案活動の効果が継続し、保守契約台数の伸びを上回る增收続く
- リニューアルは下半期に入り実施台数・平均単価共に大きく伸長し、売上は前年同期比27.2%増



	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	%
保守・保全業務	22,429	63.1	25,337	61.0	2,907	13.0
リニューアル業務	11,982	33.7	15,237	36.7	3,254	27.2
その他の	1,137	3.2	972	2.3	-165	-14.5
合計	35,549	100.0	41,546	100.0	5,996	16.9

2026年3月期第3四半期 業績概要

6

売上・利益とも極めて順調な拡大続く

- 売上高は通期予想に対して進捗率74%となり、保守・保全、リニューアルとも順調
- リニューアル売上の急増は利益率が低下する傾向があるが、今年度は顕著な単価上昇によりこれを相殺。保守契約台数の増加に伴う生産性向上効果も続き粗利益率の改善続く
- 販管費の抑制も効果を発揮し、営業利益は前年同期比28.5%増となり通期業績予想に対する進捗率は74%と順調。のれん償却前営業利益率は19.4%と高水準を維持

(百万円、円、%)

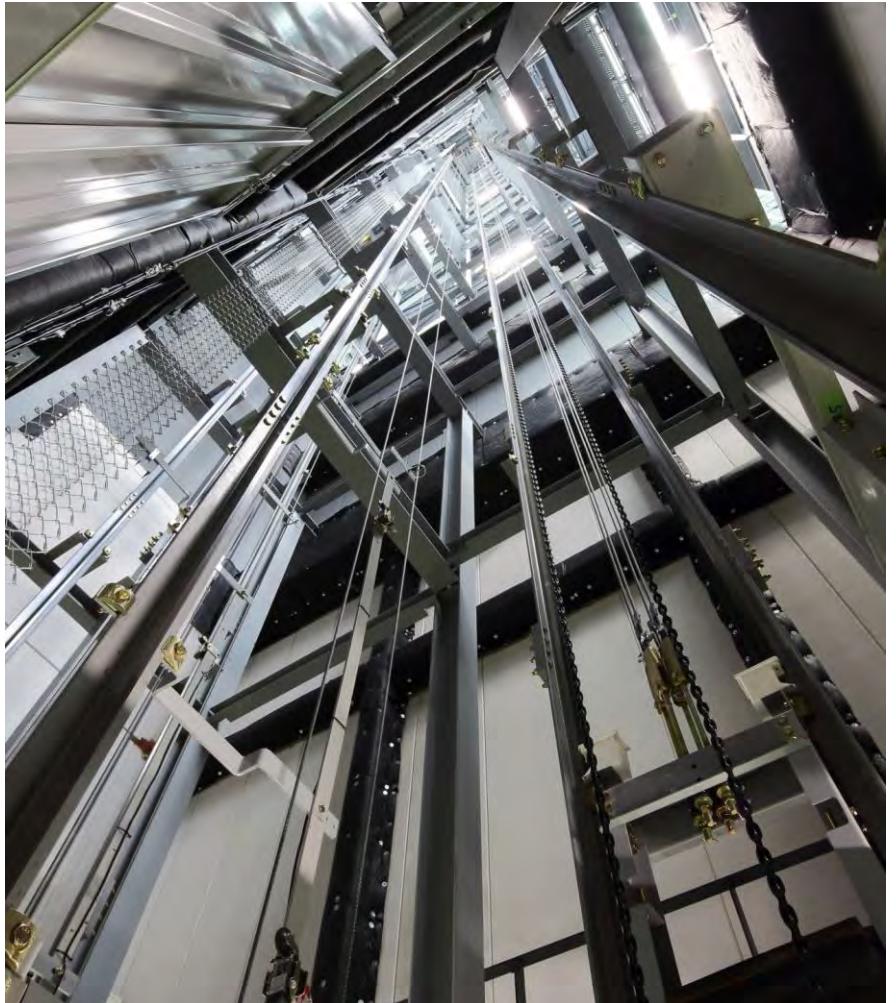
	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	%
売 上 高	35,549	100.0	41,546	100.0	5,996	16.9
営 業 利 益	6,120	17.2	7,866	18.9	1,745	28.5
経 常 利 益	6,146	17.3	7,870	18.9	1,724	28.1
親 会 社 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益	3,904	11.0	5,032	12.1	1,128	28.9
(減 価 償 却 費)	1,152	3.2	1,138	2.7	-13	-1.2
(の れ ん 償 却 額)	209	0.6	201	0.5	-7	-3.8
の れ ん 償 却 前 営 業 利 益	6,329	17.8	8,067	19.4	1,737	27.5
一 株 当 た り 四 半 期 純 利 益*	21.92	--	28.24	--	6.32	28.9

*2025年10月1日に株式分割（1：2）を実施。一株当たり四半期純利益は前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して算出。

バランスシートの状況

- 業績拡大に伴い、現預金・株主資本残高が増加。予定通り長期借入金の返済も進み、自己資本比率は58.3%へ上昇するなど継続的な財務健全性向上を確認

	2025年3月期末	2026年3月期 第3四半期末	(百万円) 増減額
現預金	2,344	3,490	+ 1,146
有形固定資産	12,348	12,259	- 89
無形固定資産	4,232	4,322	+ 89
借入金	5,004	5,401	+ 397
純資産	20,315	22,683	+ 2,367
総資産	35,407	38,200	+ 2,792



2026年3月期 連結業績予想

- 通期業績予想は据え置き
- 設備投資・減価償却費予想は据え置き
- 19円（配当性向51.3%）の配当予想も据え置き

2026年3月期連結業績予想

9

順調な進捗を確認し、11月13日に開示した業績予想・配当予想は据え置き

- 保守・保全業務では保守契約台数の純増ペース維持、リニューアル業務も出荷台数・単価の伸長を見込む
- 契約台数増に伴う生産性向上に加え、販管費のコントロールを続けのれん償却前営業利益率は19%超を見込む。結果、売上・利益共に過去最高を更新する見込み

(百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期 予想		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比
保守・保全業務	30,538	61.8	33,600	59.5	110.0
リニューアル業務	17,325	35.1	21,500	38.1	124.1
その他	1,511	3.1	1,400	2.5	92.7
計	49,375	100.0	56,500	100.0	114.4

(百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期 予想		
	金額	売上比	金額	売上比	前期比
売上高	49,375		56,500		114.4
営業利益	8,624	17.5	10,600	18.8	122.9
経常利益	8,621	17.5	10,600	18.8	123.0
親会社株主に帰属する当期純利益	5,530	11.2	6,600	11.7	119.3
(減価償却費)	1,562	3.2	1,500	2.7	96.0
(のれん償却額)	276	0.6	267	0.5	96.9
のれん償却前営業利益	8,900	18.0	10,867	19.2	122.1

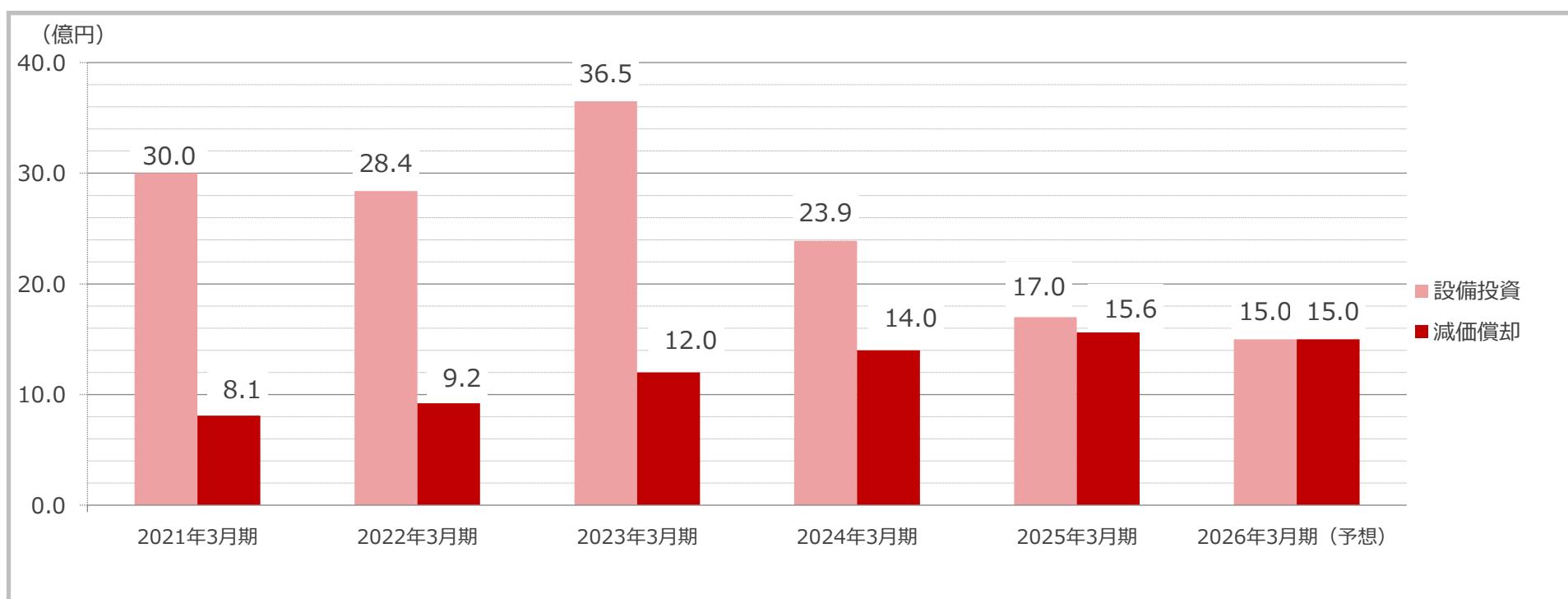
2026年3月期連結業績予想（設備投資・減価償却）

10

(億円)

	2025年3月期（実績）	2026年3月期（予想）	備考
設備投資	17.0	15.0	リモート遠隔点検サービス「PRIME」に関する投資等
減価償却費	15.6	15.0	

設備投資と減価償却費の推移



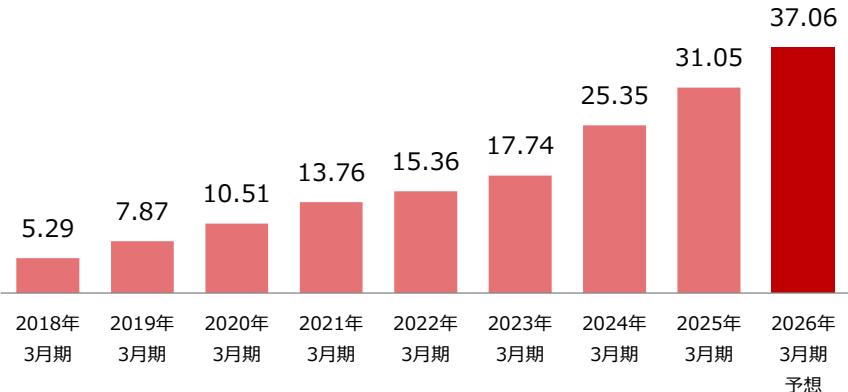
2026年3月期連結業績予想（配当）

11

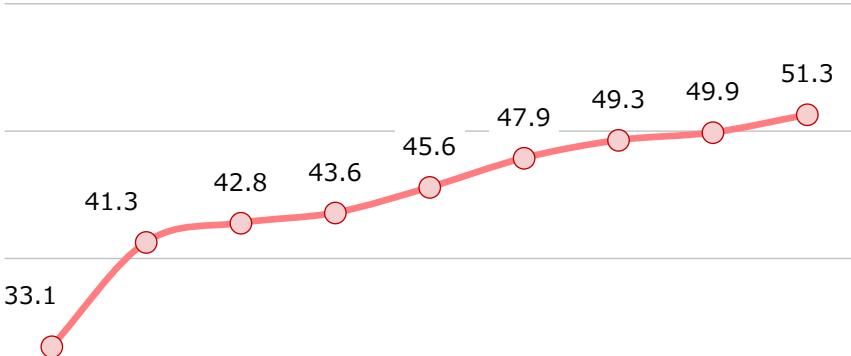
- 株主還元方針は配当性向40%以上を原則とし、EPS・DPSの安定的な上昇を目指す
- 2026年3月期の配当は、順調な業績拡大を背景とする前期比3.5円※増配の19円（配当性向51.3%）の予想を据え置き。

※2025年10月1日に実施した株式分割（1：2）考慮後

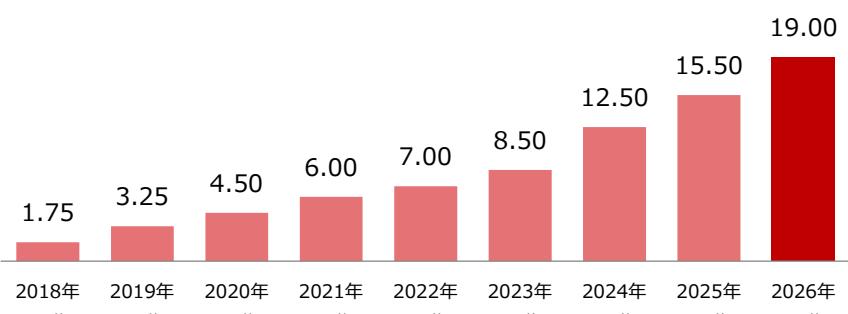
修正後EPS（円）推移



配当性向（%）推移



修正後DPS（円）推移



配当性向40%以上継続

*2025年10月1日株式分割(1:2)を実施。グラフは2018年3月期より遡及調整

2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期 2025年3月期 2026年3月期予想



参考資料

■ 基本戦略

- ・ プライム市場に相応しい企業として、中長期の視野で事業成長のみならず、社会的・地球環境問題にも向き合い、社会環境変化に適応した、持続的な成長と企業価値の向上を目指す

■ 成長戦略

- ・ 国内マーケットのシェア拡大による保守・保全業務
売上成長（オーガニック+M&A）
- ・ 保守契約台数の増加に伴うリニューアル需要の獲得

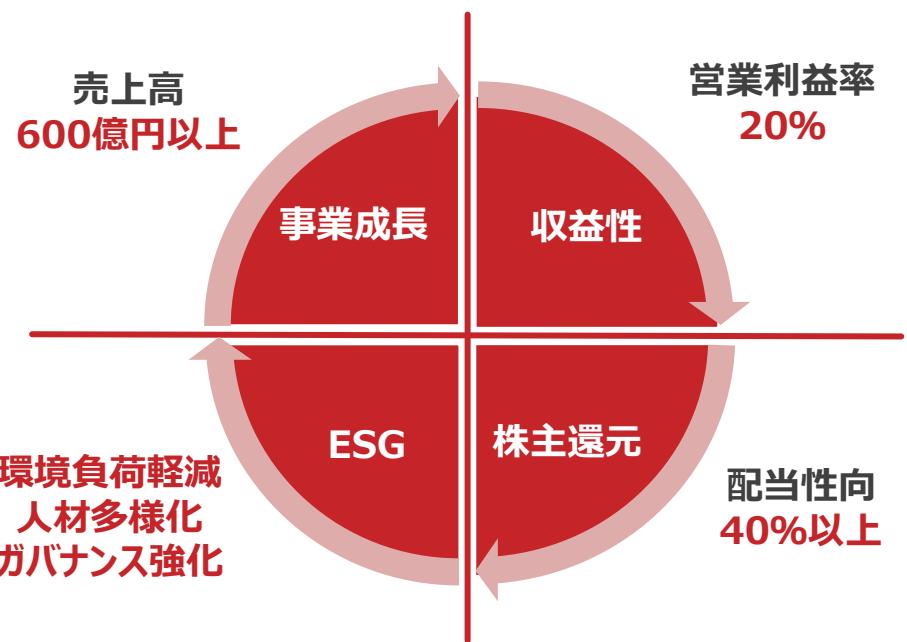
⇒ 売上高600億円以上

- ・ 人材育成、デジタル活用による事業生産性・業務効率性の改善による収益性の向上

⇒ 営業利益率20%（のれん償却を除く）

■ 重点指標

成長を通じ企業価値を高め、
全てのステークホルダーと共に栄える

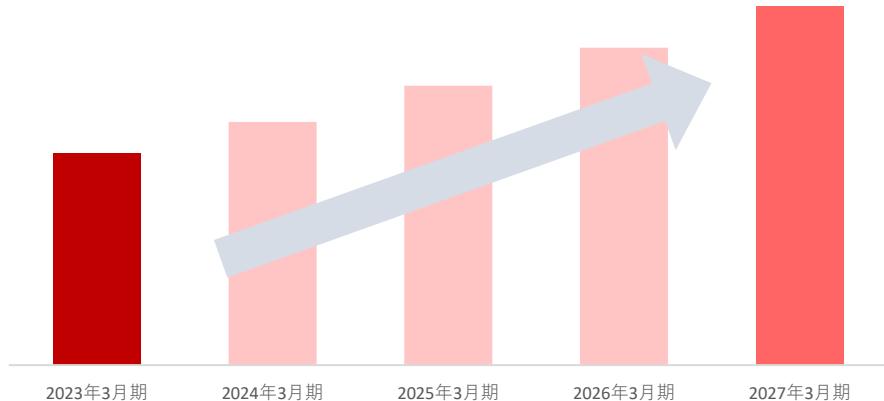


- ・ 成長性、収益性指標は2027年3月期までに達成することを目標とする
- ・ 営業利益率は、積極的なM&Aの推進を前提として、のれん償却を除く

保守契約台数増による売上高600億円 営業利益率20%の達成

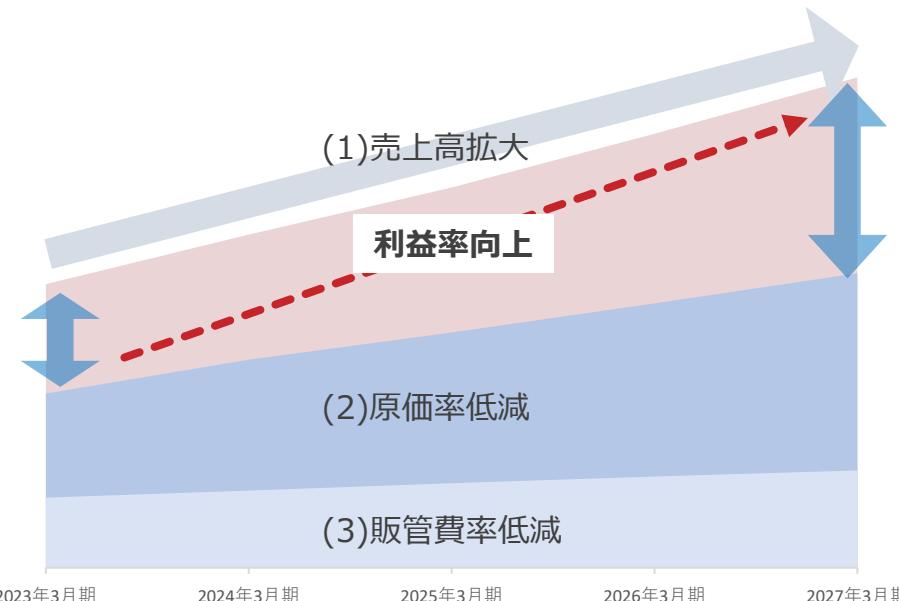
1. 国内マーケット獲得・シェア拡大による売上高600億円の達成

- 2025年3月末時点で、当社の国内保守マーケットシェアは約10%(当社推計)
- 高品質・適正価格のサービスを武器に、新規進出エリアを中心にシェア拡大の余地は十分にあり、保守営業体制・人員を拡充し、新規獲得を推進
- 台数増によるリニューアル需要の獲得で売上高拡大



2. 生産性向上による営業利益率の向上

- 貢献利益率が高い保守売上高の増加
シェアが低い新規進出エリアの台数増で利益率の向上
- 原価率低減
技術員増加も、新卒中心の採用+人材育成でコスト抑制
技術員1人当たり管理台数の向上
リファービッシュ品活用による材料費抑制
- 販管費率低減
人員配置最適化、システム活用による事務コスト抑制



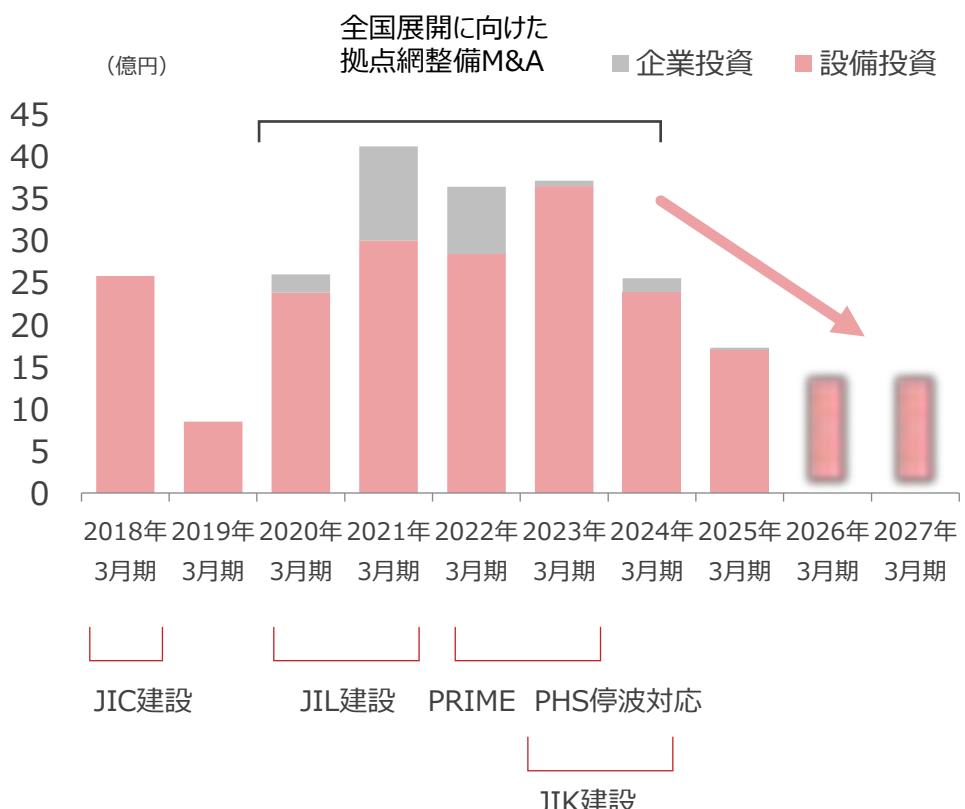
台数増で段階的に収益向上 営業利益率20%達成

VISION2027：計画進捗状況～投資状況

15

国内企業投資、設備投資はピークを超えFCFは黒字化基調へ

投資金額推移



- 設備投資は2023年3月期がピーク、2024年3月期のJIK竣工後は保守契約増加に伴うPRIME端末の調達やシステム・開発投資にとどまる見込み
- 全国展開に向けた拠点網整備のためのM&Aはほぼ終了。今後は特定地域のシェア拡大や事業継承問題を背景とする小規模な投資が中心となる見込み

今後はEBITDAとフリー・キャッシュ・フローは平行して増加基調となる見通し

(注) 企業投資は子会社取得による資本支出額です。

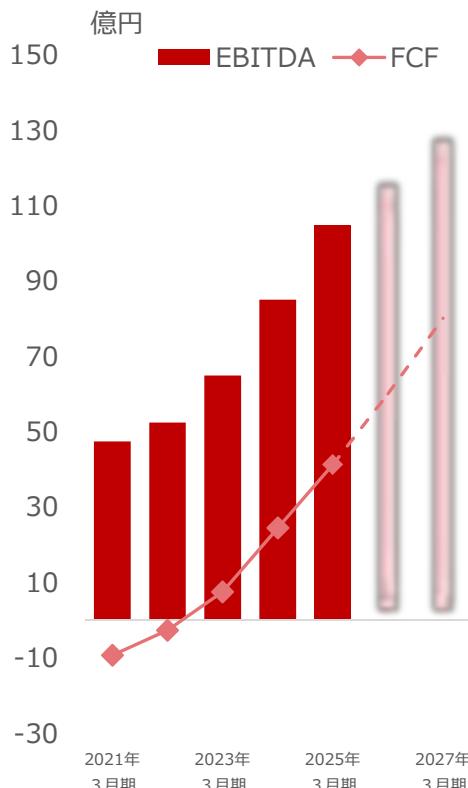
VISION2027：キャッシュフローマネジメント

16

フリー・キャッシュフローはステークホルダーと共有し持続的成長につなげる

- 設備投資は2023年3月期がピークで、減少に転じる
- 保守契約台数の増加による事業拡大、収益性向上により、フリー・キャッシュフローは増加傾向へ

EBITDA FCF見通し



キャッシュフローマネジメント

株主還元

原則40%以上
利益成長を株主と共有

非連続成長投資

国内M&Aの継続、
本格海外進出準備

継続事業投資

人材投資、DX推進、
研究開発等

- 配当性向は49.9%から2026年3月期51.3%へ
- DPSは3.5円増配の19円
- 還元を通じて利益成長を株主と共有
- 当面はネットキャッシュを目指す
- 国内ではシェア拡大・事業継承問題等を背景とするボルトオンM&Aを継続
- 海外事業は現状、ノウハウの蓄積期間と位置づけ
- 事業拡大によりリスク耐性を強化し、将来の本格展開に備える
- 競争の源泉であるサービス品質向上のための投資を継続
- 事業特性としてトップライン成長に伴い収益性は向上
- 営業利益率20%超では人材への投資も加速

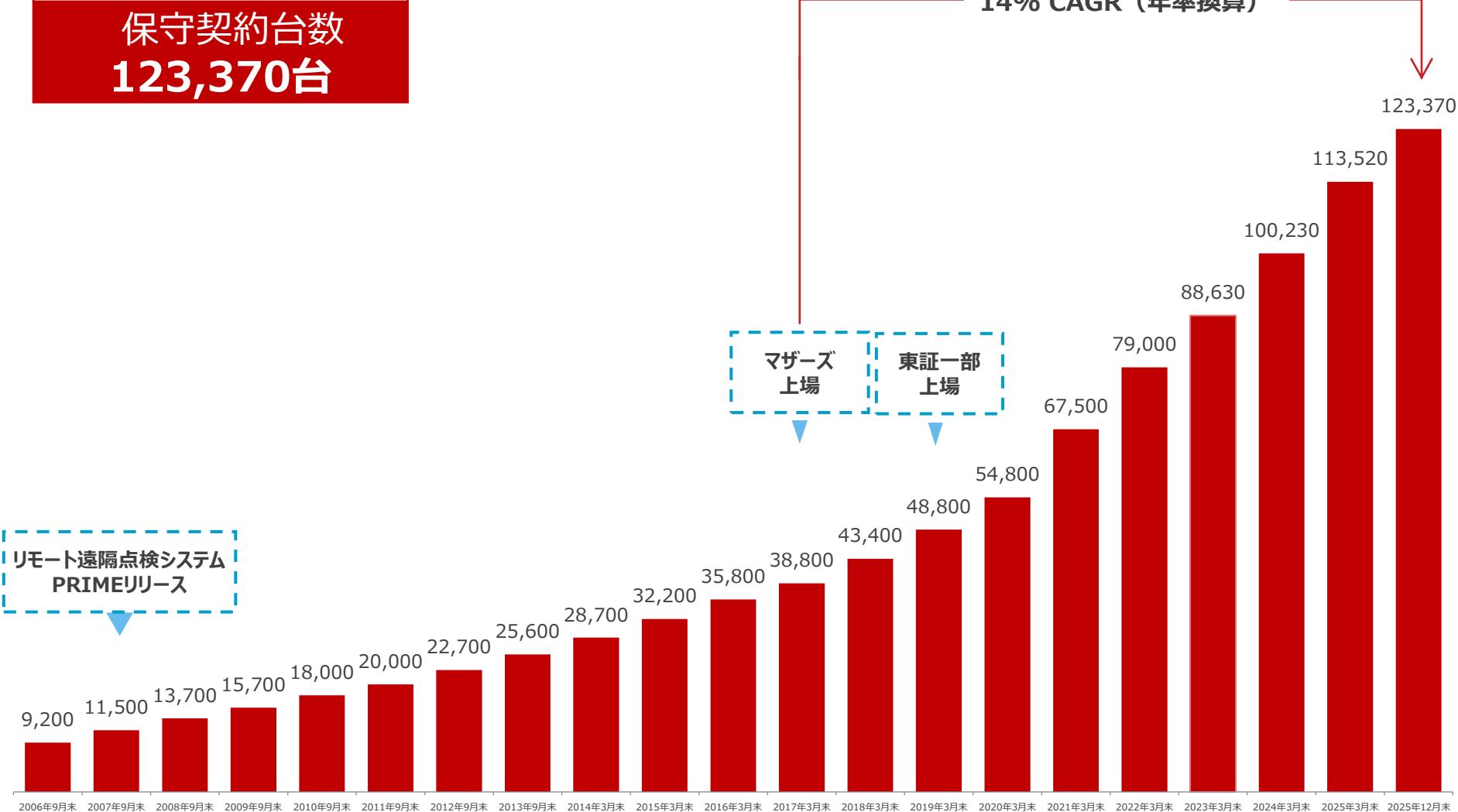
国内保守契約台数の推移

17

2025年12月末
保守契約台数
123,370台

14% CAGR (年率換算)

123,370

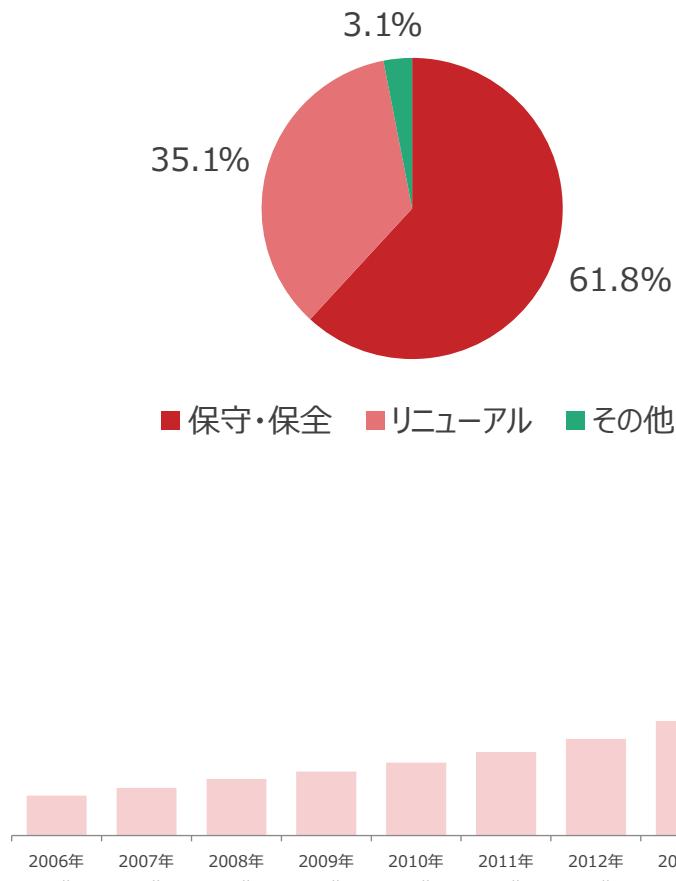


売上成長

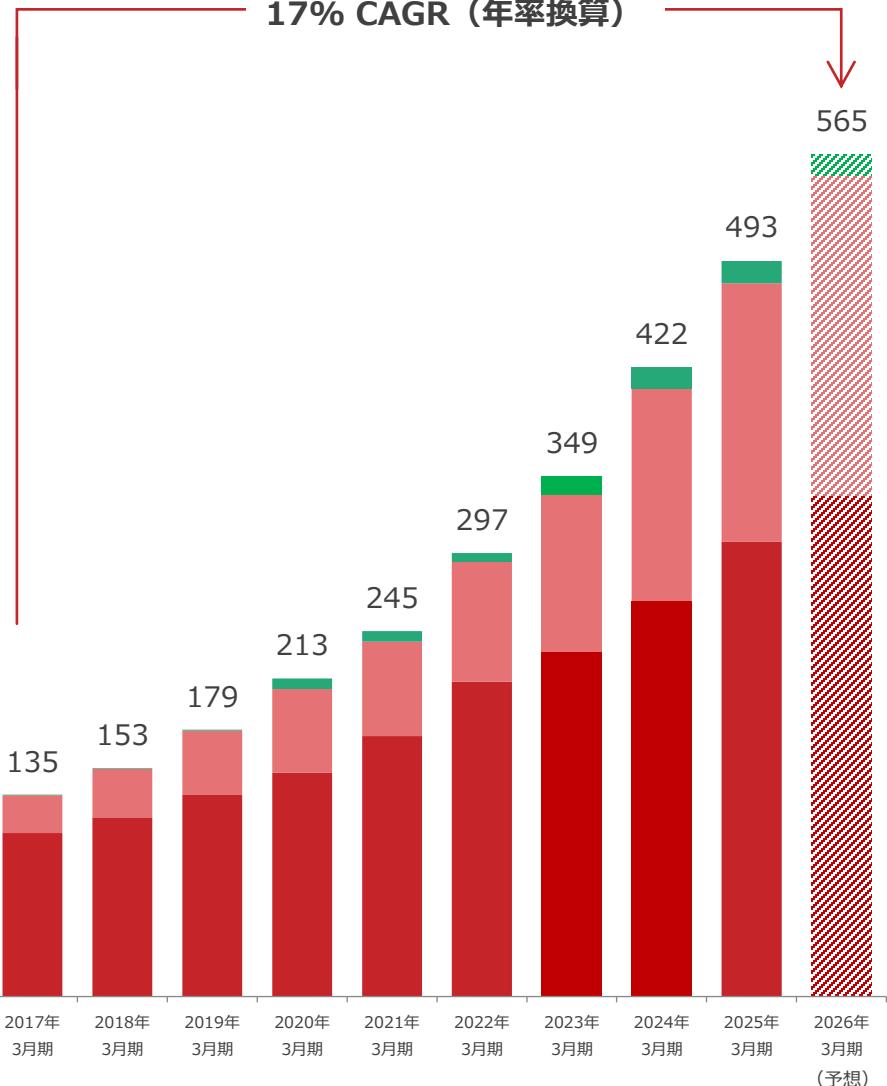
18

2025年3月期

売上高 493億円



17% CAGR (年率換算)



(注) 決算期変更に伴い2014年3月期は6ヶ月決算。上記は年率換算して表示しています。

■ 保守・保全 ■ リニューアル ■ その他

国内拠点

2026年2月1日

営業所数 153拠点

北陸エリア

- ▶ 北陸施設株式会社
(持分法適用関連会社)

東海/甲信越エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス東海株式会社
- ▶ ジャパンエレベーターサービス城西株式会社
- ▶ 株式会社長野エレベーター **M&A**
- ▶ 株式会社ナカ・エレベータ **M&A**
- ▶ 株式会社上新ビルサービス (※) **M&A**

関西エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス関西株式会社
- ▶ 株式会社NSエレベータ **M&A**

中国/四国エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス中四国株式会社
- ▶ 株式会社三好エレベータ **M&A**
- ▶ エヒメエレベーターサービス株式会社 **M&A**

九州/沖縄エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス九州株式会社
- ▶ 株式会社エレドック沖縄 **M&A**
- ▶ SGエレベーター株式会社
(持分法適用関連会社)

(※) エレベーター等の保守・保全及びリニューアル業務以外のグループ会社

(注) 2020年10月2日に子会社化した株式会社コスミジャパンは、2022年9月1日を以てジャパンエレベーターサービス城西株式会社が吸収合併。2020年11月11日に子会社化した株式会社関西エレベーターは2023年5月1日を以てジャパンエレベーターサービス関西株式会社が吸収合併。2020年5月20日に子会社化したセイエーエレベーター株式会社は2023年7月1日を以てジャパンエレベーターサービス城南株式会社が吸収合併。2022年10月3日に子会社化した株式会社生田ビルディンググンテンヌは2023年9月1日を以て四国昇降機サービス株式会社が吸収合併。2021年5月13日に子会社化した株式会社トヨタフアリティーサービスは2023年12月1日を以てジャパンエレベーターサービス城西株式会社が吸収合併。2023年9月1日に子会社化した株式会社エミックは2024年4月1日を以てジャパンエレベーターサービス北海道株式会社に吸収合併。2024年10月1日に子会社化した昌和輸送機東北株式会社は2025年7月1日を以てジャパンエレベーターサービス東北株式会社に商号変更し、ジャパンエレベーターサービス城西株式会社東北支社と統合。2021年8月10日に子会社化した四国昇降機サービス株式会社、2021年10月1日に子会社化した四国エレベーターサービス株式会社は2025年10月1日を以てジャパンエレベーターサービス中四国株式会社が吸収合併。

北海道エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス北海道株式会社
- ▶ 株式会社EVOTECH **M&A**

東北エリア

- ▶ ジャパンエレベーターサービス東北株式会社
- ▶ 株式会社東北エレベーターサービス
(持分法適用関連会社)

関東エリア

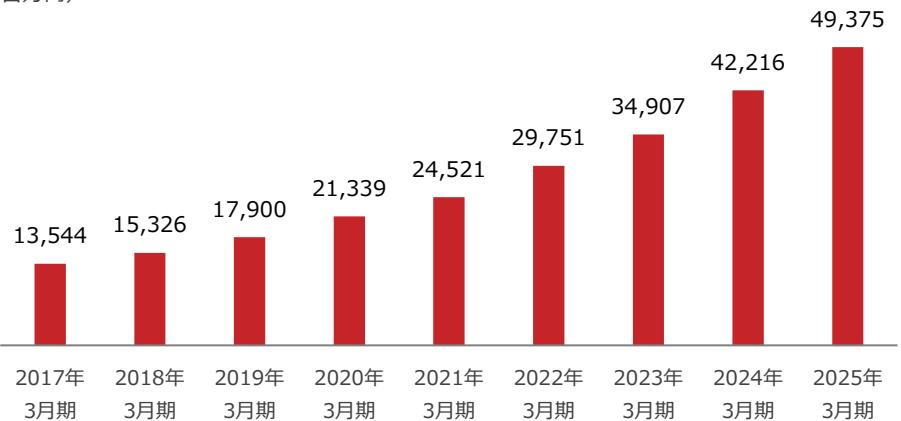
- ▶ ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社
- ▶ ジャパンエレベーターサービス城南株式会社
- ▶ ジャパンエレベーターサービス城西株式会社
- ▶ ジャパンエレベーターサービス神奈川株式会社
- ▶ ジャパンエレベーターパーツ株式会社
- ▶ ジャパンパーキングサービス株式会社
- ▶ 東京エレベーター株式会社 **M&A**
- ▶ 株式会社関東エレベーターシステム **M&A**
- ▶ エレベーターメディア株式会社 (※)



財務ハイライト (1/2)

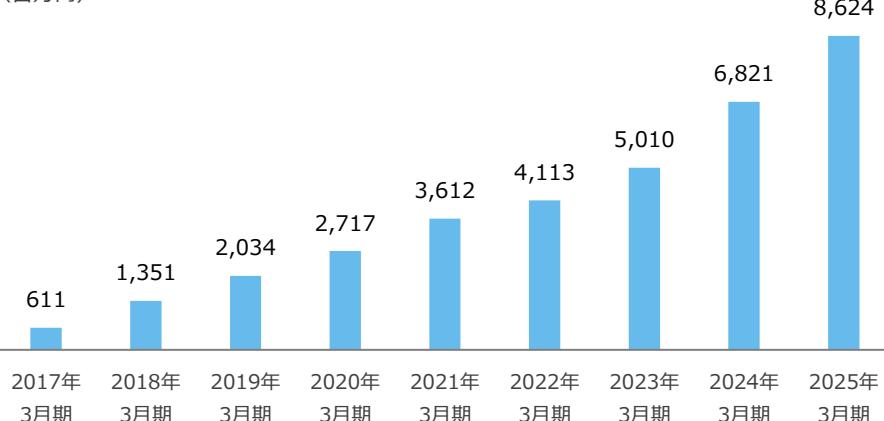
売上高

(百万円)



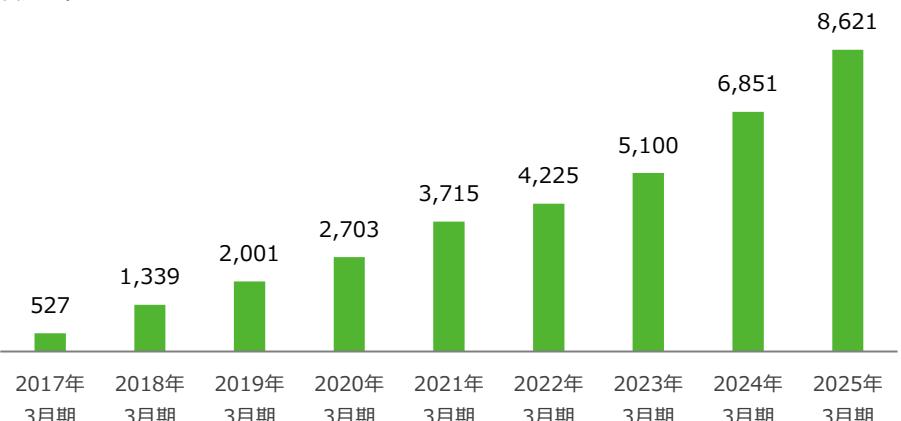
営業利益

(百万円)



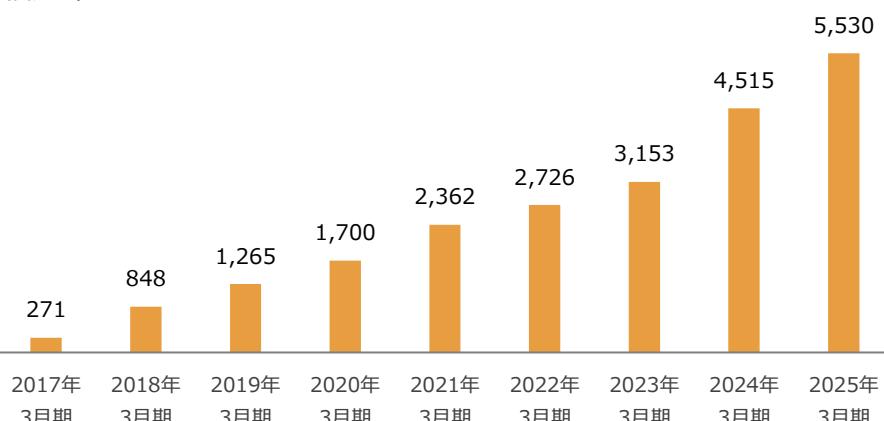
経常利益

(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



財務ハイライト (2/2)



株式分割 (2017年10月1日 1:2 2018年10月1日 1:2 2021年1月1日 1:2 2025年10月1日 1:2)

免責事項および将来見通しに関する注意事項

免責事項

- この資料は皆様の参考に資するため、ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社（以下、「当社」という。）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。